

第4回 北海道大学 映像・現代文化論学会大会

～プログラム～

◎日程 2020年11月21日(土) 10時～17時30分
◎方式 オンライン開催(事前登録制)
◎主催 北海道大学大学院文学研究院 映像・現代文化論研究室

・開会の辞

総合司会 応 雄
中村 三春

○研究発表

ヤンチャー・ミクローシュ監督の映画における「^{ヘテロトピア}他なる場所」について

——『僕はこのようにやって来た』の空間システムをめぐって——

博士後期課程 モルナール・レヴェンテ
司会 博士後期課程 堅田 諒

『野良猫ロック セックスハンター』の時代性——大和屋竺を中心に——

博士後期課程 崔 文婕
司会 博士後期課程 堅田 諒

—昼食休憩— *13時再開

『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』論——物語機械と、その両義性——

博士後期課程 肖 禾子
司会 博士後期課程 大野 建

「生の現在進行形」と「出来事の複数性」——侯孝賢『憂鬱な楽園』試論——

博士後期課程 キョウ 金浪
司会 修士課程 三浦 光彦

「1秒に24回の真実」を超えて——ハイフレームレート技術からアクション映画へ——

博士後期課程 欧陽 如一
司会 修士課程 李 浩ブン

○講演 *15時40分より

講師紹介 小川佐和子

偶然と事物の美学

——クラカウアー『映画の理論』をめぐって——

東京大学大学院准教授 竹峰 義和

・閉会の辞

阿部 嘉昭

(肩書の記載のないものは、映像・現代文化論研究室教員)